

自ら実践する態度を育てる学級活動のあり方

——協力し合い主体的に実践できる話し合いの工夫——

目 次	
I テーマ設定理由	89
II 研究仮説	89
III 研究の視点	90
VI 研究内容	90
1 テーマのとらえ方	90
2 特別活動の特質とその果たす役割	90
(1) 時代の要請	90
(2) 特別活動の目標及び内容	91
(3) 特別活動の特質	91
(4) 学級活動の内容と指導の工夫	93
3 話し合いを支える学級経営	94
(1) 学級を高める雰囲気作り	94
(2) 仲間意識を育てる	94
(3) 朝や帰りの会の工夫	94
(4) 教室の環境作り	95
4 話し合い活動を育てる工夫	96
(1) 教師の姿勢	96
(2) 学級活動指導上の配慮	96
(3) 集会活動と話し合い活動	96
(4) 話し合い活動での指導や助言	97
V 授業実践	101
1 主題及び議題	101
2 主題設定の理由	101
3 児童の実態	101
4 活動経過	101
5 本時のねらい	102
6 準備するもの	102
7 活動計画	102
8 指導上の留意点	103
9 評価	103
10 実践をおえて	104
VI 研究のまとめと課題	108
<おもな参考文献>	108

浦添市立沢岬小学校教諭

平 川 美千代

自ら実践する態度を育てる学級活動のあり方

— 協力し合い主体的に実践できる話し合いの工夫 —

浦添市立沢岨小学校教諭 平 川 美千代

I 研究テーマの設定

児童自ら学級生活が充実向上することをめざし、学級の問題に気づき、みんなで解決すべく話し合いそして望ましい集団活動としての実践へと移っていく、そんな学級活動の展開ができないものであろうか。指導要領においても「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図る」ことが打ち出されたが、この「主体的に対応できる能力」とは正に上記のようなものを指すのであろう。ところが、私自身学級に何か問題が起ると、教示的な学級指導をし、児童個々の訴えに即担任が対応していることが多い。これでは、児童が物事を判断、解決処理していく力は身につかずいつまでも担任から自立することができないであろうし、内面化し行動していく力も弱いであろう。

現在の私の学級に目を向けてみると、児童一人一人は、明るく健康で、自分の好きな物事や個人にかかわること、与えられた物については、素直に取り組んでいる。しかし、学級全体にかかわるもの、学級みんなで目標に向かってやり遂げるという集団における活動となると、一人一人のよさや力が発揮されない状況にある。それは、学級成員としての所属感の希薄、共有するものへの責任感の欠如、自己中心性等が考えられる。

そこで、学級における集団意識を高めるためには、「みんなで協力する喜びと大切さ」を体験させることにあると考える。そして、毎日の生活や友だちとの関わりの中で生じるさまざまな問題を解決していく過程で、お互いの考えを言い合える場を保証し、設定してやり、個々の悩みや共通の喜びを実感させることが大切である。

さらに、児童の内面に迫るには、絶えず問題意識を持って話し合いの場に臨ませなければならない。そのためには、学年目標及び学級目標等の意識化、どんな学級にしたいか、毎日をどう過ごしたいか等を児童個々に持たせなければならない。それを阻む問題を課題として、みんなで話し合いによって解決していく学級の雰囲気を作り、互いが認め合い励まし合い育ちいく学級経営が必要である。

以上のことから、学級経営とも関わらせながら話し合い活動を充実させることにより、問題解決の方法を構築し、主体的に取り組む過程を通して児童個々の実践意欲が培われるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

望ましい人間関係の育成を基底にすえ、話し合い活動の指導過程における指導助言及び評価を工夫することによって、話し合い活動を育て、学級活動の楽しさを味わい、個性を生かし、自ら生き生きと実践する態度が育成されるであろう。

Ⅲ 研究の視点

- 1 学級活動を支え育てる学級経営のあり方を追求する。
- 2 問題に気づき議題化するまでの手だて、助言のあり方を明らかにする。
- 3 話し合い活動の指導過程を明らかにする。
- 4 話し合い活動の評価や事後指導における指導助言のあり方を明確にする。

Ⅳ 研究内容

1 テーマのとらえ方

- (1) 「主体的に対応できる能力」とは、

毎日の生活や友だちとの関わりの中で生じる問題を、

- ① 自ら問題に気づく。
- ② 解決するための方法を模索する。
- ③ それを自らの意志で選択決定する。
- ④ 決定した事柄を行動に移す。

この一連の行動を身につけることであるととらえる。

- (2) テーマの構想

これらの行動を育てるには、以下のことが考えられる。児童が互いに相手のよさを認め合い、理解し合い、共に高め合う雰囲気が必要ならぬ。そして、学級の成員として自覚を持ち、学級を向上させようという積極的な姿勢を持っていなければならない。

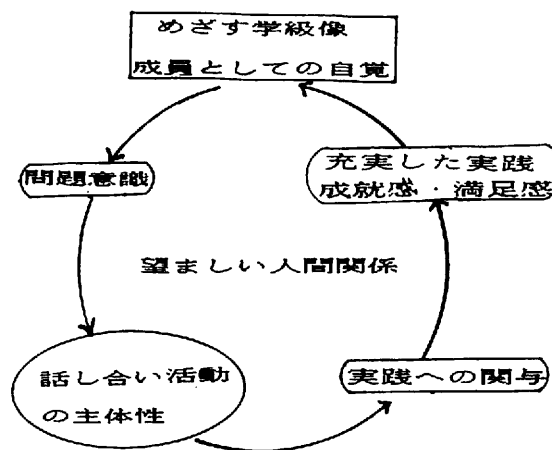
学級成員としての自覚。学級を向上させたいという姿勢が、学級の問題に気づき、解決しようという意志を働かせる。解決しようという意志の働きが話し合い活動に主体性をもたせる。主体性を持った話し合いをすることにより、実践への自我関与も強くなり、充実した実践を促す。充実した実践は充実感満足感、成就感を高め、さらに学級成員としての自覚を一層強める。

この繰り返しを積み重ねて行くことによって、より高い目標へ近づくという相乗効果をもたらすと考える。

2 特別活動の特質とその果たす役割

- (1) 時代の要請

相乗効果



かつて、子ども達は庭先や道に繰り出しそこで思い思いに遊びを展開したものである。年長の子が遊びをリードし、年少の子は先輩の遊びの技に感嘆し自分もいつかはと目指す。その中で集団としてのきまりが自然に発生し、それを犯すものは戒められながら互いに育ち合っていく。地域の大人達は、自分の子でなくても声をかけ時に注意を促す。しかし、子ども達のその小社会に大人達は干渉せず、むしろ尊重さえしていたのではないか。沖縄方言の「ナングル育チユン」と言う言葉にそれが現れているのではないか。

今日子ども達を取り巻く環境は厳しい。一步外へ出れば車の危険にさらされる。塾や稽古事など忙しいスケジュールをこなす。さらにテレビやテレビゲーム等個にこもりがちで、他との関わりを持つ遊びの場が減少している。兄弟も少なく、けんかなどによって相手の存在をしらされるということも少なくなっているのではないか。このような中で、学校現場では集団を通して行う特別活動の充実が迫られる。

(2) 特別活動の目標及び内容

指導要領では次のように示されている。

① 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

② 特別活動の内容

ア 学級活動

学級活動においては、学級を単位として、学級生活の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。

イ 児童会活動

児童会活動においては、学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を行うこと。

ウ クラブ活動

クラブ活動においては、学年や学級の所属を離れ、主として第(4)学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、共通の興味や関心を追求する活動を行うこと。

エ 学校行事

学校行事においては、全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

(3) 特別活動の特質

① 集団による教育活動

特別活動は、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の四内容で構成されている教

育活動である。学級集団としての実践活動，係集団の実践活動，児童会の異年齢集団の実践活動，全校ないしは学年集団の実践活動のどれをとっても，それぞれの人間関係における協力関係が成立しなければ，本来のねらいは達成されない。

また，集団活動の実践を通して集団意識も育つ。集団活動を推進するには，集団意識が大きな原動力になる。つまり，集団活動を推進するには集団意識が前提となり，同時に，集団活動そのものが集団意識をも高めるといふ相互に働き合う関係にある。望ましい人間関係の育成，基本的な生活習慣の形成，健康で安全な生活に心がける態度の育成，日本人としての自覚，公共に奉仕する精神のかん養など，これらを実践的集団活動を通して達成しようとするところに，指導のポイントがある。

では，望ましい集団活動とは何か。次のようなものをねらいとする活動と考える。同時にそれを構成する集団の条件を下記にあげた。

ア 望ましい集団活動のねらい

- 集団活動の機会を与えることによって，個性の伸長と社会性の発達という相互の結合を図る。
- 集団内の相互作用と成員の力動的関係を図り，互いに向上発展していくことを目指す。
- 集団活動を通して経験する社会性及び人間関係から，個性豊かな社会性と創造的な人格を育てる。
- 集団活動を成立させるには，具体的実践活動が必要である。この実践活動の過程を通して目標の実現を図る。
- 集団活動の実践を通して，潜在化している個の顕在化を図る。

イ 望ましい集団の条件

- 集団の目標を共有し，凝集度が高い。
- 成員のそれぞれが自らその一員であることを願い所属感を持つ。
- 親和感で結ばれ伸び伸びとした行動がとれる。
- 自由な雰囲気のみちて，拘束されずに意見がいえぬ。
- 成員は相互に見守り，受け入れ，支持し合い，孤立児がいない。
- 組織が流動的で目的や状況でリーダーの交代が容易である。
- 集団内の対立がなく相互結合がみられる。

② なすことによって学ぶ

特別活動のねらいとして「望ましい集団活動を通して，自ら正しく判断する力や，友人と協力して問題解決の態度能力を身に付けること」があげられている。（自己教育力を育てる小学校の学級経営）

計画的意図的あるいは自主的に、活動をすることを通して、互いにぶつかり合ったり理解したりしながら自己を見つめ、人間関係を学び、個性や社会性を身につけていく。結果の善し悪しではなく、活動の過程そのものが大事にされなければならない。したがって、望ましい人間関係に配慮しつつも、集団の特質に留意し、発達段階に応じて児童にまかせ、児童が自己決定していく場を増やしていくことである。その繰り返しのより、解決していく知恵を身につけ自己実現した喜びと自信を強め、自主的実践的態度をも育っていくであろう。

(4) 学級活動の内容と指導の工夫

学級活動の内容として、指導要領では次のように示している。

- ① 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。
学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の仕事の分担処理など
- ② 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。
 - 不安や悩みの解消
 - 基本的な生活習慣の形成
 - 望ましい人間関係の育成
 - 意欲的な学習態度の形成
 - 学校図書館の利用や情報の適切な活用
 - 健康で安全な生活態度の形成
 - 学校給食の正しい理解と習慣形成
 - 学校生活に関わるきまりの理解
 - 基本的行動様式の形成。など

①は、従前の学級活動にあたるもので、児童の自発的自治的な実践活動を主とする。②は、学級指導にあたるもので、教師の計画的意図的要素が強い。これらが統合され「学級活動」となり、学校や児童の実態に応じて弾力的な指導が行われるようになった。そこで、指導方法として次の3つを示している。

ア 教師が中心になって指導する。

イ 児童による自主的な活動を中心として行う。

ウ 教師の指導と児童の自発的な活動を組み合わせて行う。

①の学級や学校の生活の充実と向上に関することでは、主に、イの児童の自発的な活動によるものが大きい。しかし、話し合いの未熟な段階では、ウのように教師の指導も組み合わせながら、児童の自発性を育てていくことも考えられる。

②の日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関することでは、アの教師中心の指導が多くみられたが、ウによる児童の活動も取り入れた指導の改善が期待される。

児童の活動を取り入れた工夫とは、次のような物である。

- 資料の作成を児童の手で行う。

(生活上の問題点や実態の表やグラフ、ビデオの収録、取材)

- 自分や相手の気持ちを考えながら役割演技をする。
- 児童の自主的な話し合いの場面を設定する。
- 練習を取り入れる。
(自転車の正しい乗り方、本の借り方)
- 評価の方法を児童が考えて行う。
(実践や評価のためのカードを作る。学級全体の変容を表やグラフに表す。)

3 話し合い活動を支える学級経営

(1) 学級を高める雰囲気作り

話し合い活動を高めるには、児童が問題意識を持ち、解決しようとする意欲を起こすことが大切である。それには、先に、一人一人が、学級生活をよりよくしていこうという積極的な思いを持っていなければならない。

そこで、学年度の始めの取り組みとして、児童一人ひとりが毎日をどう過ごしたいか、どんな学級を目指したいかを話し合い、学級像を描かせたい。そして、学校目標や学年目標とも重ね合わせた学級目標を設定し、学級皆の目指す方向を共同意識化させたい。また、学級活動の一貫として、学級の詩や歌を作ったり、学級旗を作るなどの活動を通して、さらに高めたい。これらの活動が、学級を高めていこうとするうねりを作るきっかけになるであろう。

(2) 仲間意識を育てる

仲間意識を育てることは、集団活動の目的でもあり、集団活動の原動力を作る手段でもある。仲間意識を育てる方法として次のようなことがあげられる。

- ① 集団関係の美しい物語や事実を話し、間接的に心情や正義感を育てる。
- ② グループによる生活ノートや日記を取り組ます中で志気をもりあげる。
- ③ グループの対抗試合やみんなで取り組む集会活動を持つ。
- ④ 体ごとぶつかり合う相撲大会のような取り組みや体ごとふれ合うゲームなどを取り入れ、接近感を持たせる。
- ⑤ 教科の中で、グループ学習や助け合い学習をする。

(3) 朝や帰りの会の工夫

朝や帰りの会は、係からの連絡やニュースの紹介反省等、学級成員の人間関係を深める良い機会であり、学級活動の基盤ともなる。その意味で、短時間ではあるが、充実した朝や帰りの会の工夫を試みたい。

朝の会として

- ① 歌やゲームなどを取り入れ、和やかな雰囲気を作る。
- ② 一人一人が発表する場を設ける。

これは、わたしの学級での一学期の実践であるが、始めは自由発表の「ニュースの紹介」を取り入れてあったが、あまり活発でなかったことから考え直すことにした。そこで、一日二人ずつの順次発表で、クイズを中心に出発することにした。子ども達は興味を示し、発表する子に集中した。声の小さい子の場合、他の子が代わりに問題を読みたがるが、できる限り本人に

頑張らすようにした。「聞こえない。もっと大きな声で」との声がかかるが、気の小さい子でも、それに応えようと少し大きな声になって頑張ってくれた。また、問題の内容や出し方に個性が出、答える側も一生懸命で、授業では見られない光景が展開されることが多かった。

以上のように、子ども達を生かす場、ふれ合いの場として大切にしたい。

帰りの会では、一日の反省として、ややもすれば告げ口的な発表も多いが、それを一つのきっかけとして建設的な意見になるように話し合う雰囲気を作り、話し合いの仕方を育てたい。これからの発表から議題に発展させられるのが見つかることもある。また、よりよい学級作りのために、毎日の帰りの会の中で、その日の隠れた善行や小さな「よさ」をも発見し、互いに確認賞賛し合うことによって、自信と信頼感を育て、望ましい集団作りの機会とする。また、これらの発表を活発にするために、グループノートを作りグループで話し合わせたり、交替で発表するなどの手だても工夫したい。

(4) 教室の環境作り

① 議題お知らせコーナーの設置

話し合いに向けて、前もって議題等を知らせることで、心の準備をすることができる。朝や帰りの会で知らせるだけでなく、常時掲示をすることによって学級活動への参加の意識を高めたい。また、話し合いで決定したことなども掲示をし、実践活動をより確かにしたい。

② 議題ポストの設置

ポストを設置することにより、児童が問題を提示したり、困っていることを相談したりしやすいようにしてあげたい。ただし、機能させる手だても忘れてはならない。

ア ポストを開ける日を位置づけ、学級活動に生かす。

イ 議題を入れた子には、返事カードを出すなどの配慮をし、次への意欲を持たせる。

ウ 朝や帰りの会、日記などにも取り上げる内容が含まれていることを気づかせ、問題発見の目を高める。

エ 活用が停滞している時は、時間をとり、個人だけでなく係やグループなどでも相談させ全員に書かせるのもよい。

オ 議題ポストは、児童の興味をひく楽しいポストを工夫したい。

③ 係のコーナー

係活動は、話し合い活動に直接関わるものではないが、学級を向上させる手がかりとなったり、問題を発見するきっかけとなったりする。また、学級の成員としての自覚を促し、一人一人を生かす大切な活動ともなる。児童が自主的に活動しやすいように整えてあげたい。

④ 学級のできごと

学級のできごと、あるいは学級の歴史をその都度掲示していく方法も考えられる。日直がその日のできごとの中で気づいたことを短冊に書き、それを貼る。これは、学級に目を向けさせ、児童に問題を発見させる一つの方法になる。良いことのみをとりあげ、学級の宝とし掲示していくことも児童の励みとなろう。

⑤ 友だちのよいところ発見

望ましい人間関係にあるかどうかは、話し合い活動へも影響を及ぼす。児童一人一人が認められ伸び伸びと意見を言える雰囲気を作りたい。まず、図のようにカードが入る袋をつけた自画像や写真。個人表を掲示する。誰でもよい面に気づいた児童が、メッセージカードを入れていく方法である。



4 話し合い活動を育てる工夫

(1) 教師の姿勢

話し合い活動の成果をあげるには、学級活動の限られた時間だけではむづかしい。特に、学級の生活上の諸問題に気づく力を育てることは容易なことではない。児童は、係活動や当番活動においての不満や困った問題があると、自分で解決することなく直接担任に訴えてきたり告げ口をしたりする。ところが、朝の会や帰りの反省等では問題点として出してくれることは少ない。そこで、児童個々の訴えを肯定的に受け止めた上で互いの話し合いによって解決するように仕向けたり、場合によっては帰りの反省等に提案してみんなの意見を求めさせたりするなどの手だてをし、教師が直接判断を下すようなことは避けたい。

教師は、権威的でなく、民主的で、何でも話し合える受容する姿勢を持ち、教育相談的態度で接すれば、教師と児童の信頼関係は深まり、更に児童相互の人間関係にまで好ましい効果をもたらすであろう。

また、他の教科でも、話し合いによって解決に向ける姿勢を絶えず持って指導にあたるようにする。

(2) 学級活動指導上の配慮

学級活動指導上の配慮事項として次の7点が挙げられている。

- ① 児童による望ましい集団活動が行われるように配慮する。
- ② 学級集団の一員としての意識を高めるようにする。
- ③ 個々の児童の要求を理解し、一人一人が当該学級集団に所属しているという満足感や成就感、充実感をもてるように、集団の中に正しく位置づけられ、認められるように配慮する。
- ④ 児童がもつ具体的な問題について話し合わせ、実践を通して解決を図る方向に活動が展開されるように配慮する。
- ⑤ 問題の解決に当たっては、教師は児童と共に考え、児童と共に解決していく姿勢をもつ。
- ⑥ 児童による解決が難しい問題や児童の自主的な活動に任せられない問題もあるが、できるかぎり児童の自主的な活動を通して解決されるように留意する。
- ⑦ 学級担任の教師よりも他の教師等の専門性を生かした方が効果的である場合も予想される。例えば、健康や安全、給食の問題などを取り上げる場合、養護教諭、学校栄養職員などの協力を得て指導に当たることも考慮する。

(3) 集会活動と話し合い活動

児童にとって集会活動は楽しい活動である。そこで、話し合い活動を育てるステップとして集会に向けた話し合い活動を取り入れたい。集会の実践に向けた話し合い活動は、児童の話し合いへの参加を活発にするであろう。自分たちの決めたことを自分たちの力で実践できた満足感、成就感を味わわせたい。この満足感や成就是はさらに次への活力を生み出すであろう。失敗であっても大らかに受け止め次回に生かすよう励ましたい。この経験を繰り返し積むことによって、話し合いの意義を見つけ、話し合いの方法を身につけるであろう。

(4) 話し合い活動での指導や助言

	話し合いの進め方	指導・助言
事前	<p>①議題の選定 (放課後)</p> <p>②計画委員会 (放課後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの柱を立てる。 ○計画案を作る。 <p>③議題や話し合いの柱等の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級活動ノートに書かせる。(朝や帰りの会で知らせる。) (学級活動コーナーに掲示する。) <p>④自分の考えを書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級活動ノートに書かせる。(朝や帰りの会) <p>⑤司会に進め方を準備させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○司会ノートに書かせる。(放課後) 	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい議題か。活動可能なものか。(時間をとり全員で決めることもできる。) 児童から提案できない時は、教師が提示したいいくつかの中から選択させる。 ○柱をしぼる。討議の山をはっきりさせる。 ○なるべく早めに知らせ、考える時間を与える。 ○自治の範囲を明らかにする。 ○予想をたてさせ、その対応も考えさせる。
話し合い活動	<p>①歌やゲームで雰囲気作り</p> <p>②役割の紹介</p> <p>③議題や提案理由の説明</p> <p>④ねらいを持たせる。</p> <p>⑤話し合いの柱にそって話し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○場を和らげ楽しい会だという気持ちを持たせる。 ○司会や記録、計画委員など輪番制としどの子にも経験させたい。そのことにより互いを理解し児童一人一人も育つと考える。 ○話し合うための根拠、方向性を持たせるもので、質疑をし納得させる。 ○ねらいを明らかにして参加させる。 ○「日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること」との関連で話し合う場合は一層大切になる。 ○話し合いの話型を示し自信を持たせる。

話し合い活動	<p>⑥話し合いで決まったことを発表し確認する。</p> <p>⑦決まったことを記録し、反省や感想を書く。</p> <p>⑧反省や感想を発表する。</p> <p>⑨教師が感想を述べ評価をする。</p>	<p>○意志表示をはっきりさせる。</p> <p>○安易な多数決をさせない。</p> <p>○児童の発想や意見を尊重し、教師の発言はできる限り控える。しかし、下記のものについてはタイミングのよい助言を行いたい。</p> <p>(話し合いが問題から外れたり、結論を急ぎすぎているなど議事の進行に関わるもの)</p> <p>(発言のルールが守られていない場合や問いつめる発言が多い場合)</p> <p>但し、これらについても児童の側に気づかせ要求させるような指導の手だてを考えたい。</p> <p>○まだ、話し合われていないことについてはいつどうするかを明確にする。</p> <p>○振り返ることにより自分を見つめさせ、向上させる手だてとする。</p> <p>○児童互いに励まし高め合わせる。</p> <p>○先ず、司会や記録等役割を担った児童の労をねぎらいたい。</p> <p>○次に、発表した児童の評価を行う。</p> <p>(「発言が多かった。」などの一般的総括的评价ではなく「A君の意見に対してBさんがそれに加えて発言していました。それが、今日の話し合いの問題を解決することに役立ちました。」のように具体的事例的に評価する。)</p>
事後	<p>①決まったことをもとに実践に移す準備をする。</p> <p>(リハーサルなどで場面を想起し準備の足りないものを補う。)</p> <p>②実践</p> <p>③実践の反省や評価、感想を述べ合う。</p>	<p>○実践にあたっては、話し合いの決定通りに行われるように向ける。</p> <p>○役割分担、活動内容を密にし、実践しやすいように配慮し自分達でやれたという満足感を味わわせたい。</p> <p>○不十分なものを補って上げる。</p> <p>○失敗であっても次への意欲を失わせないように励ましたい。</p>

<補足>

① 計画委員会の計画案の生かし方

計画委員会を持ち、話し合いの柱を立て予想される事柄に対応できるよう、事前の指導を十分にしておく必要がある。計画委員会が計画案をもって臨むことが、話し合いを能率的で

確かなものにする。その案の提示の仕方はいくつか考えられる。

ア 話し合わせてから、行き詰まった時に提示する。

イ 最初に案を提示してから煮つめる。

(この場合、話し合える余地が残っていただなければならない。)

ウ 話し合いの柱をしぼり、一部だけを話し合わせる。

(討議を深めるのには良いが、実践に不十分なところを別に補わなければならない。)

エ いくつかの方法を提示し選択させる。

(話し合いが未熟な場合やあまり討議を必要としない部分に利用すると良い。)

② 活動ノートの充実

計画委員会など時間を十分にとって話し合いたいが、なかなかとれないのが現状である。

そこで、学級活動ノートをいっそう充実させたい。議題案をなるべく早く知らせ、考える時間を与える。そして、話し合い活動までに時間をとり自分の考えを書かせる。できればいくとおりもの考えを書かせる。学級の児童一人一人が考えをもって話し合い活動に臨むことで話し合いが、進めやすくなるであろう。

③ 望ましい議題の条件

学級活動の内容(1)(2)いずれも児童の自主的な話し合いを基盤にしたいが、議題として次のような条件を満たしたい。

ア 学級生活の充実と向上に関わる問題であること。

しかし、高学年においては、児童会活動やクラブ活動、学校行事など学校生活に関わる内容に及ぶことも考えられる。

イ 学級の児童全員に共同の問題であること。

ウ 児童の自主的な活動として解決できる問題であること。

④ 自治の範囲を越えるものとは

次に示す内容は、学校として児童に任せることのできないものである。話し合い活動を児童の自発的、自治的な活動にするために、この条件を児童に明確に指導しておく必要がある。

ア 相手を傷つけるような結果が予想される問題

イ 教育課程の変更に関わる問題

ウ 校内のきまりや施設・設備の利用の変更などに関わる問題

エ 金銭の徴収に関わる問題

オ 健康・安全に関わる問題、など

⑥ 黒板記録を能率よく

短時間に黒板に記録をするのは大変なことである。そこで、記録の児童を複数(2人)にし、一人はマジックで短冊に意見を書き、一人はそれを黒板に張り出すなど、児童のやりやすい方法を考えたい。

⑥ 議題の提案から話し合い活動までの計画例

曜日	時間	活動内容
土	帰りの会	議題案の呼掛け
月	放課後	議題の決定・議題の処理
火	放課後	議題の柱を立て、計画案を作る。
水	朝の会	議題や話し合いの柱を学級活動ノートに書かせ、考えてきてもらう。
木		
金	帰りの会	考えてきた自分の考えを学級活動ノートに書かせる。
土	学級活動	話し合い活動

※議題の呼掛け、決定、処理は学級役員が行い、そのほかの活動を輪番の計画委員が行う。

① 話し合いへの心構えや話型をもたせる。

<学級会にのぞむ態度>

- ア 自分の意見を必ずもとう。
- イ 自分の考えは必ず発表しよう。
- ウ 他人の意見をしっかり聞こう。
- エ みんなにわかりやすく発表しよう。
- オ みんなが発言できるように努めよう。
- カ 楽しく話し合えるように努めよう。
- キ 決めたことは必ず実行しよう。

<会を進める発言>

- ア 議長、……なので次へ進めて下さい。
- イ グループで相談させて下さい。
- ウ ……さんの意見と……君の考えは同じだと思います。
- エ ……のことは大事な事なので、もっと研究してから、あした決めてはどうですか。

<話し合いの仕方>

- ア わたしは、……がよいと思います。なぜなら……だからです。
- イ ……さんの考えにつけたします。それは、……です。
- ウ ……さんの考えに賛成です。なぜなら……だからです。
- エ わたしは、考えがかわりました。……さんの話を聞いていると……がよいと思います。

V 授業実践

平成4年11月12日(木) 5校時

沢砥小学校 3年2組

男子17人, 女子16人, 計33人

指導者 平川 美千代

1 議題 「教室をレストランにしよう」

————— 主題 楽しい給食

2 主題設定の理由

給食時間は、授業からも解放され、ほっとする楽しみなひとときである。ある程度会話を楽しみながら食事をするのはよいことであるが、学級の状況をみていると、それが度を越し騒がしい状態である。口の中に物が入ったまま大声でしゃべっている子、時にいたずら食べをしてまわりにいやな思いをさせている子、自分が食べてしまうと平気で席を離れる子、とマナーの意識が低い。

そこで、皆が気持ちよく楽しくできる給食を目指し、心配りのできる子に育てたいと考え、この主題を設定した。2時扱いとし、1時では教師を中心とした話し合いで、給食時の状態をふり返らせマナーについて考えさせたい。その発展として、2時に楽しい計画を工夫させ、さらに実践活動を行う。ごっこ遊び的な実践を行うことによって互いの心配りも意識するようになると考える。

3 児童の実態

1学期の学級活動は、従来の学級指導的な進め方が大半をしめ、児童による議題の提案や計画委員会を踏まえた話し合い活動は行っていない。学級活動の持つ意味も理解できていないようだったので、学級活動のしおりを配り、学級活動が自分達のものだという自覚を促すようにした。議題の提案に当たっては、時間を取り全員に書かせた。集会的なものを望む声や教師が中心になって進めた方がいいような内容が多かった。そこで、児童が喜びそうな集会を基に、議題の提案や計画委員会等の形を踏まえて話し合いの方法を知らせるようにした。

児童の発表は、普段の授業でも消極的で発表する子は限られている。担任の手伝いを喜んで引き受ける素直さを持っている。しかし、手伝いや当番活動など最後まで責任を果たし得なかったりすることが多い。自我関与が弱いようである。

4 活動経過

(1) 本時に関連した活動

- | | |
|---------------|---------|
| ① 学級活動「楽しい給食」 | (1単位時間) |
| ② 計画委員会 | (放課後) |

- ③ 議題の提案，話し合いの柱を活動ノートに書く (朝の会)
 - ④ 自分の考えを活動ノートに書く (帰りの会)
 - ⑤ 学級活動「教室をレストランにしよう」 (1単位時間) —— 本時
 - ⑥ 「〇〇レストラン」の実践 (給食時間)
- (2) 話し合い活動を育てることを目的としたこれまでの学級活動の取り組み
- ① わたしの目指す3年2組 (児童の活動を取り入れた教師中心の活動)
 - ② 学級活動の目的や話し合いの意義について (教師中心の活動)
 - ③ 議題「自慢大会をしよう」 (児童中心の話し合い活動)
 - ④ 自慢大会 (集会活動)
 - ⑤ 議題「ミニオリンピックをしよう」 (児童中心の話し合い活動)
 - ⑥ ミニオリンピック (集会活動)

5 本時のねらい

教室をレストランにする工夫について，話し合うことを通して心配りのできる子を目指し，学校生活を豊かにする態度を育てる。

6 準備する物

学級活動ノート，記録ノート，役割札，短冊 (話し合いの柱を書いた物と書き込み用)，マジック，セロテープ，マナーについてまとめた物，司会用進め方，計画案

7 活動計画

ちびっこサミット	
議 題	教室をレストランにしよう
提案理由	教室をレストランのようにすると，給食がいつもより楽しくなると思う。 (提案者：眞喜志悟)
司会 (多宇祐貴子) 副司会 (保栄茂朝也) 記録 (仲間睦・佐渡山梨沙・濱元真紀・比嘉夏己)	
話し合いの進め方	留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 始めのあいさつ・学級の歌 ○ 係の紹介 (福元梓) 1 議題の確認 2 提案理由の説明，質問 3 めあてを発表する。 4 話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 質問に答えられるようにする。

<p>○レストラン実施日 (テレビ放送がなくメニューのおいしそ うな日)</p> <p>○どんな席にするか (くじで決める, なかよし同志 5, 6人ぐらい)</p> <p>○レストランらしくするための工夫 (かざりつけ, 音楽を流す, 花をかざる テーブルクロスをかける)</p> <p>○どんな準備や係が必要か (席をつくる, くじを作る, かざりつけ テーブルクロス6枚, 花, テープ)</p> <p>○どんなマナーがあるか (前時のプリントをもとにつくる)</p> <p>○どんな名前にするか (アニメレストラン)</p> <p>5 決まったことの発表</p> <p>6 反省の記録</p> <p>7 話し合いの感想を発表する</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<p>○話し合い事項ではない。</p> <p>○同性同志を主張する子が多い場合「仲良く」 のめあてにそっているか考えさせる。</p> <p>○みんなが仲良く食事のできる適当な人数にな っているか。</p> <p>○準備に無理のない内容か。</p> <p>○実践できる状態か, めけていないか。</p> <p>○前時の話し合ったことが生かされているか。</p> <p>○楽しく工夫したか。</p> <p>○できるだけ児童に気づかせたい。</p> <p>○役を担当した子の労をねぎらい発表した子の 意義をほめる。</p>
--	--

8 指導上の留意点

- (1) 議題や話し合いの柱を前もって知らせ, 自分の考えを持たせて話し合いへ参加させる。
- (2) 司会には, 話し合いの進め方のプリントを準備させ, 予想をたてさせ, 自信をもって臨ませるようにさせる。
- (3) つぶやきもよく観察し発表に向ける。
- (4) 席作りでは, 実践の際に, 取り残される子がいないように配慮する。
- (5) レストランの準備では, 全員に取りくませる雰囲気をもりあげる。

9 評価

- (1) 話し合い活動
 - ① 話し合いに喜んで参加していたか。
 - ② ねらいにそって意見を発言できたか。
- (2) 実践
 - ① 話し合いで決まったことを実践に移せたか。

- ② 協力して進めていたか。
- ③ 心配りをして楽しく食事をしていたか。

10 実践を終えて

(1) 授業者の反省

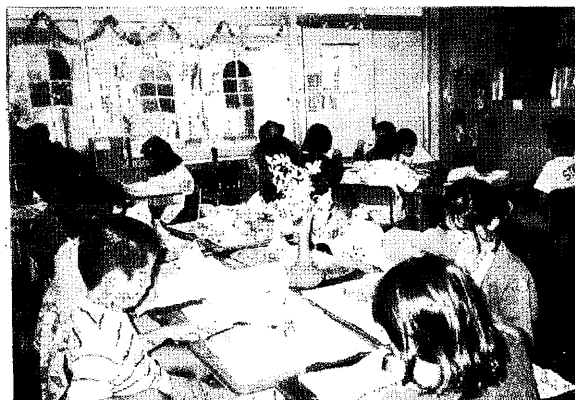
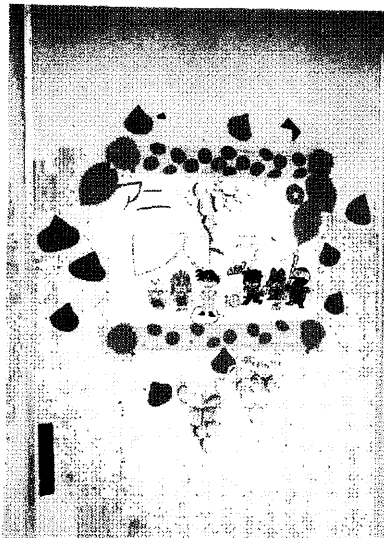
本時の話し合いを運ぶために計画委員で計画案を作った。洩れがないよう一生懸命作った案を提示したせいか、子ども達が話し合う余地をなくしたようだった。子ども達は発表したい気持ちももっていたようだった。もっと大まかな計画案にして提案すればよかったと思う。

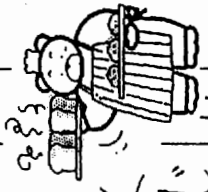
(2) 意見及び感想

- ① 学級歌が雰囲気作りによかった。
- ② 司会がきはきはきしてリードしていた。
- ③ 会議の進め方，ルールを児童が意識していたよかったです。
- ④ 計画委員がまとめすぎたのではないかと。
- ⑤ 話し合いの柱が多すぎたのではないかと。

(3) 指導助言

- ① 話し合いの柱が多いと深まりがなくなる。3本ぐらいにとめた方がよい。
- ② マナーなど問題に気づかせたいときは、普段の生活の状態をテープにとって聞かせると気づきやすくなる。
- ③ 話し合いの基礎基本を学ぶことができよかった。
- ④ 提案するときは全員が納得するように根拠をもとに発表させる方がよい。
- ⑤ 案はみんなに考えさせてから後で出す方法もある。
- ⑥ 話し合っただけ良かったという意義や喜びをもつよう教師が最後に締めくくることが大事である。
- ⑦ 教師と児童の結び付きができていないと話し合い活動はできない。
- ⑧ 話し合い活動は結果よりも過程が大事である。





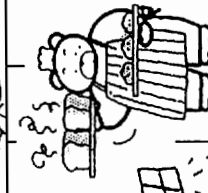
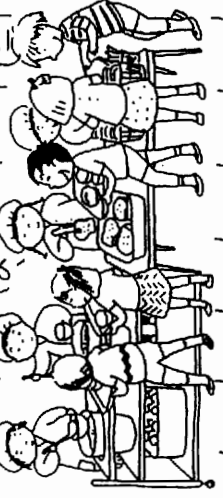
わたしは、アニメレストランを
かたむくてもわたしのからだは
くじけず元気なままです。

せいかくえきをするし、おれが
ドキドキしました。

わたしはじいじと係でした。

アニメレストランのみんなは、
くだものだけじゃなくて、動物

もはればるかたなどおも
ました。



私は、レストランから帰るの
から、よくおしゃべりがして
思いました。

なぜかと言うと、外の人がい
かかれば、意見がなからで
す。

外に人がいても外には出
ないからです。



学級会の進め方

- これより、ちびっこサミットを始めます。
3年2組の歌を歌いましょう。起立
- 今日の係の紹介をします。
司会は（ ）さん、副会長は（ ）さん、記録は（ ）さん（ ）さん（ ）さん（ ）さんの4人です。ではお願いします。
- 1 今日の議題は、（ ）さんが提案した「 」です。
- 2 提案理由の説明を（ ）さん、お願いします。
提案理由について質問はありませんか。
- 3 今日のめあては（ ）です。
- 4 話し合いの柱は（ ）つあります。
1つは（ ） 2つめは（ ）。
3つめは（ ）
- 5 では1つめの（ ）について計画委員の案を発表して下さい。
………このことについて意見を発表して下さい。
ほかにありませんか。
つけたしたいことはありませんか。
賛成意見、反対意見がありましたら発表して下さい。
………それでは（ ）に決定します。
- 次に、2の（ ）について話し合います。計画委員の案を発表して下さい。このことについて意見がありましたら発表して下さい。
- 次に
- 6 それでは、決まったことを記録係の（ ）さんに発表してもらいましょう。
- 7 今日の反省や感想を書いて下さい。
- 8 今日の話し合いについて感想を発表して下さい。
- 9 先生に、お話をお願いします。
- 10 これで第（ ）回ちびっこサミットを終わります。

VI 研究のまとめと課題

1 研究のまとめ

理論研究や検証授業から次のようなことがまとめられる。

- (1) 望ましい人間関係の配慮
 - ① 朝の会等一人一人を生かす場を設けることにより、児童が生き生きとしてきた。
 - ② 心を和ますゲームや児童互いがふれあうゲームを機会ある事に取り入れることによって、児童互いも打ち解け、心が少しずつ開かれていくようである。
 - ③ 児童が不満を訴えてきたときや児童同志の衝突が起きたとき、それぞれを肯定することによって心の安定を得る。その後、話し合わせることで建設的な姿勢が生まれつつある。
- (2) 話し合い活動を通して
 - ① 司会の進め方や発表するときの話型を明らかにすることによって、児童が安心して活動できた。
 - ② 計画委員が計画案を持つことによって、話し合いの方向性が見え、進め安くなった。
 - ③ 話し合いの事前、途中、事後、実践活動後、それぞれの活動を評価することによって、児童の活動が持続し、次への意欲も湧いた。
 - ④ 議題の提案の仕方や計画委員の持ち方等を指導することにより、話し合いの意義を理解し、協力する姿勢が生まれてきた。

2 課題

次のようなことをさらに深めて行きたい。

- (1) 計画案を話し合いの中でどう生かすか。(提示の仕方や内容、タイミング等)
- (2) 話し合いの柱をどう絞り、どこで討議を深めるか。
- (3) 実践活動の際、自我関与の弱い児童をどう関わらせるか。

<おわりに>

この研究にあたりましては、教科指導員の川上喜真先生はじめ前田貢所長、諸見里稔係長、池田博暁指導主事等多くの先生方のご指導ご助言を頂きました。ことに北谷第二小学校の古波蔵保隆校長先生には、お忙しい日程の中細やかなご指導を頂き、研究を無事進めることができました。この研修の機会を与えて下さり、励まし支えて下さった諸先生方皆さんに深く感謝申し上げます。

<おもな参考文献>

「小学校指導書特別活動編」	文部省	東山書房
「指導計画の作成と指導の工夫」 (小学校特別活動指導資料)	文部省	株式会社全教図
「子どもが動く学級活動の展開」	大谷徹夫小宮省吾編著	東洋館出版社
「自己教育力を育てる小学校の学級経営」	高階玲治編	明治図書